STRIX Vol. 17, pp. 205-208, 1999

山形県酒田市飛島におけるヨーロッパコマドリの観察

佐々木均・佐々木あさ子

〒013-0038 秋田県横手市前郷一番町1-21

はじめに

ヨーロッパコマドリ *Erithacus rubecula* はユーラシア大陸北西部からアフリカ北部にかけて広く分布している（Frint *et al.* 1984, Cramp *et al.* 1988）が，日本での記録は1990年11月18日に千葉県市川市行徳鳥獣保護区で標識調査用の網にかかった1個体1例が知られているのみである（亀谷 1991，原島 1991）．筆者らは1995年5月4日，山形県酒田市飛島においてヨーロッパコマドリ1羽を観察した．これはわが国で2度目の記録であるが，1回目の記録では得られていない本種の野外での行動についてデータが得られたのでここに報告する．

観察地

飛島は山形県酒田市の北北西39.3kmの日本海上にあり，面積2.32km^2，周囲10.2km，標高は最も高い地点で69mの台地状の島である．本種を観察したのは島の東部，中村集落の上にある酒田市立飛島小中学校のグランドである．この周囲はタブノキ *Machilus thunbergii*，クロマツ *Pinus thunbergii*，アカマツ *P. densiflora* などの林となっていて，グランド内は丈の低い草本類で被われ，東から南側の縁にはオオイタドリ *Reynoutria sachalinensis* を主とする群落が見られる．

観察記録

1995年5月4日の午後3時10分頃，このグランド東側のオオイタドリ群落と丈の低い草地の境界付近の潅木にとまっている本種1羽を発見し，双眼鏡（8倍，10倍）および望遠鏡（20倍）で観察した．その後20m程まで接近することができ，写真撮影を行なった．この個体の特徴を以下に記す．

1．形態

大きさについてはほかの個体が近くにいなかったため直接比較できなかったが，このシーズンに同地でたびたび目撃した近縁のコマドリ *E. akahige* よりもやや小さく感じられた．形態については，頭部が丸くやや大きめで体も丸みがあり，ふ蹠がやや長めの典型的な小形ツグミ類の特徴を備えていた（図1）．

1999年1月20日 受理

キーワード：*観察記録，飛鳥，ヨーロッパコマドリ*

図 1. 飛島で確認されたヨーロッパコマドリ（背面より）
Fig. 1. European Robin *Erithacus rubecula* in Tobishima Island

図 2. 飛島で確認されたヨーロッパコマドリ（横面より）
Fig. 2. European Robin *Erithacus rubecula* in Tobishima Island

頭頂から後頭，後頸，背，肩羽にかけてはわずかにオリーヴ色味のある一様な灰褐色で，眼の上から後方にかけてわずかに淡色の眉斑が認められ，角度によっては眼の直前から眼の後方にかけてやや暗色がちの過眼線を形成しているようにも見えた．腰，上尾筒，尾羽上面と初列風切・次列風切・三列風切の外弁は背より幾分褐色味の強い灰褐色であり，初列風切・次列風切・三列風切の内弁は灰黒色であった．大雨覆の先端部にはバフ色の斑が認められ，淡い翼帯を形成していた．額，眼先，眼の周囲，頬，喉，胸にかけてはコマドリの胸よりもやや明るい色調の橙褐色であった．腹・脇・腿はかなり汚れた感じの灰白色で特に脇には不定形の黒色斑が認められた．この斑紋は羽毛の乱れによって基部の黒色が露出していたものと思われる（図 2）．また，尾羽を立てた時に下尾筒が乳白色であることも確認した．

くちばしは黒色で，虹彩は暗色であり，ふ蹠から趾は灰褐色であった．

2．行動

発見後しばらくの間は茂みに潜行せず，地上から約50cmの目立つ高さで行動していた．斜めに突き出た枝にとまる姿勢は地上と体軸の角度がほぼ45°で，尾の角度も体軸と平行に保っている時間が長かったが，ときおりコマドリのように尾を立てることもあった．潅木の枝から地上に降り，何か採食してはもとの高さにもどるというヒタキ類あるいはムシクイ類のような行動を続けながらこの境界付近を南へ50m以上移動し，グランド南端のブッシュに潜行して見失った．この間数分と思われる．地上では草に体の半分以上が隠れ，歩き方がウォーキングかホッピングか確認することはできなかったが，コマドリのように地上で長い時間を過ごすことはなかった．

鳴き声については「ピチッ，ピチッ」という小さい地鳴きを確認した．

考　察

この個体は羽毛の磨滅のすすんでいる春という時期でありながら，大雨覆先端部がバフ色で翼帯を形成し，頭側から頸側にかけて灰色のラインがないので第 1 回冬羽から第 1 回夏羽を迎えるところだと考えられる（Cramp *et al.* 1988，Jenni & Winkler 1994）．本種の最も東に分布する亜種 *E. r. tataricus* は基亜種 *E. r. rubecula* より上面が強く灰色を帯び，顔から胸の橙褐色は淡いといわれている（Cramp *et al.* 1988）ので，本個体はこの亜種の特徴を備えているように見える．しかし，この齢では基亜種でも上面は灰色がちで，頭側から頸側の灰色が不明瞭で，特に雌では灰色がまったくないことが多く，顔から胸の橙褐色も淡いのが普通であるといわれており（Cramp *et al.* 1988），また各亜種の羽衣の違いそのものがわずかで連続的であるという記載（Svensson 1992）もあるので，亜種の特定はできなかった．

本種の繁殖分布の東端はオビ川の中流域，ほぼ東経90度あたりとされ（Frint *et al.*1984，Cramp *et al.* 1988），この最も東の亜種 *E. r. tataricus* の越冬地でわかっているのはイランとカザフスタン南東部である（Cramp *et al.* 1988）．これ以外にも越冬地があると考えられ

るが，少なくとも中国は繁殖，越冬とも分布域に入っていない（鄭 1976）．本個体に足環などは装着されておらず，風切や尾羽への糞の付着など飼鳥によく見られる兆候も認められなかったが，上記の知見を総合すると，本種の日本への自然渡来の可能性は低い．したがって，現段階ではこの個体が自然渡来であるか人為的飛来であるかの判断は困難である．

謝　辞

本稿をまとめるにあたり，種の同定に際して日本野鳥の会野鳥記録検討会にお世話になった．厚くお礼申し上げる．

引用文献

Cramp, S. (chief ed.). 1988. The Birds of the Western Palearctic. Oxford Univ. Press. Oxford.

Frint, V.E., Boehme, R.L., Kostin, Y.V. & Kuznetsov, A.A. 1984. A Field Guide to Birds of the USSR. Princeton Univ. Press.

原島政巳. 1991. ヨーロッパコマドリ. 日本の生物 5(2):48.

Jenni,L. and R.Winkler. 1994. Moult and Ageing of European Passerines. Academic Press. London.

亀谷辰朗. 1991. ヨーロッパコマドリの標識放鳥. 日本の生物 5(2):37.

Svensson, L. 1992. Identification Guide to European Passerines.4th, revised and enlarged edition by the author, Stockholm.

鄭作新. 1976. 中国鳥類分布名録第 2 版. 科学出版社. 北京.

A record of the European Robin *Erithacus rubecula* in Tobishima Island

Hitoshi Sasaki & Asako Sasaki

1-21 Maegouichiban-Cho,Yokote-Shi, Akita-Ken 013-0038, JAPAN

We observed an European Robin *Erithacus rubecula* in Tobishima Island, Yamagata Prefecture on 4 May 1995. It was feeding at the edge of the athletic field in the island. This is the first observational record of this species in Japan.

Key word: European Robin, Tobishima Island